

## 「日々の歌」のポイントと「日々の歌」を練習する意味

あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。  
(1コリント 12:27)

兄弟姉妹からのリクエストにより、「日々の歌」のポイント(強弱、表情等)を楽譜に書き込み、サイトにUPすることになりました。このポイントをご自分の「日々の歌」の本に鉛筆で転記してください。プリントアウトして使う場合は、本の形にして黒い表紙を付けてください。

なお、下記に「日々の歌」を練習する意味についてまとめましたので、参考にしてください。

### 1. なぜ「日々の歌」を練習するのでしょうか？

賛美には、「賛美のための賛美」と「証としての賛美」があります。

賛美のための賛美：

礼拝や福音集会で歌われる賛美です。各自が好むように歌って主をほめたたえます。この場合、自分がどのパートを歌っても構いません。ソプラノを歌おうが、どのパートを歌おうが問題ありません。従って練習は必要ありません。

証としての賛美：

福音コンサート等で歌われる賛美であり、救霊の戦いとしての賛美です。主に向かって賛美すると同時に、「未信者への証」として賛美します。ですから練習が必要です。

練習とは「ひとつになるための練習」です。サンシティ町田の方が「なぜ感動するのか。それは皆さんがひとつになっているから」と語っておられた通り、私達の賛美がひとつになる時、主のご栄光が現されます。これが「証としての賛美」であり、詩篇に書かれた「巧みな賛美」(47:7 巧みな歌でほめ歌を歌え)です。

ただし、あまり堅苦しく考える必要はありません。そのような意識を持ってさえいれば、基本的には喜んで参加していただければ結構です。

### 2. 「ひとつになるための練習」とは？

「ひとつになるための練習」とは、まず音楽の「縦(リズム)」と「横(ハーモニー)」を合わせる練習です。次に音楽の「表情」と「声の質」を合わせる練習です。このようにして全員がひとつになってひとつの事を表現します。

### 3. 各パートの役割

キリストのからだとして各々に役割があります。全員がソプラノではありません。アルトもあり、テノールもあり、バスもあります。各パートが互いからだの器官として支え合い、仕え合い、そのようにして主のご栄光を現します。

ソプラノだけの賛美：

それはそれで美しいですが、何かが欠けているのも事実です。純粹だけど単調でソプラノだけでは賛美として限界があります。

ソプラノ+アルトの賛美：

アルトが加わっても、聴く人はソプラノの旋律しか聴かないでしょう。その意味でアルトは地味なパートです。でも、ここにはソプラノだけの音楽にはない驚くべき豊かさがあります。それはハーモニーです。調和のある豊かさです。アルトはソプラノの引き立て役ですが、かといって、どちらが主役でも脇役でもありません。両者は溶けあってひとつになるからです。

ソプラノ+アルト+バスの賛美：

音楽はバスによって支えられ、賛美に安定感を与えます。これが男性であるバスの役割です。バスの役目は音楽の土台を作ることです。ところが音楽はもっと豊かになれます。それがテノール役割です。

ソプラノ+アルト+バス+テノール（4声体）の賛美：

テノールが加わることで、音楽に天国的な香りが生まれます。賛美にテノールで参加すると、賛美全体が天国に昇っていくのが判ります。その意味で、テノールは賛美を天国に結びつける天使のような存在です。

以上、各々のパートの役割を記しました。それぞれが自分の役割をわきまえて、ひとつになることを目指して、祈りつつ練習してください。これが賛美による、「キリストのからだ」の実現です。私達は一人では何ひとつ力ある働きはできません。主のご栄光を現すために、互いが互いを必要としています。

#### 4．私達がひとつになって表していくものとは？

私達が練習を通してひとつになり表していくものとは「歌詞」です。歌詞に込められた主のご愛、赦し、慰め、希望、救い等を、できる限り注意深く、心を注ぎ出すようにして表現しましょう。そのためにも、楽譜に記載されたポイントに注意しながら歌いましょう。

そこにおのずから、「主のご栄光」が現されます。練習の過程で、個人は全体の中に溶けてゆき、人間の栄光は消え去ります。個人的な優越感や劣等感は主によって解消され、自分を見ないで主のご栄光を仰ぎ見る恵みにあずかることができます。「難しい」「できない」という感覚を持っていても良いのです。私達の信仰によって、主は最終的に演奏会本番で私達にできないことをして下さいます。これはみことばの約束です。ですから安心して、大いに喜んで賛美に励みましょう。

しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。  
(コリント 12:9)